

ミャンマーにおける「地球観測衛星データを活用した天候インデックス保険の開発」が 第2回宇宙開発利用大賞の「内閣府特命担当大臣（宇宙政策）賞」を受賞

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社（グループCEO取締役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）傘下の損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：二宮雅也、以下「損保ジャパン日本興亜」）と損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社（社長：角 秀洋）による「地球観測衛星データを活用した天候インデックス保険^{※1}の開発」が、第2回宇宙開発利用大賞^{※2}において、内閣府特命担当大臣（宇宙政策）賞を受賞しました。これは、宇宙開発利用の推進において特に顕著な功績が認められた取組みが表彰される制度で、金融機関では初めての受賞となります。

※1 天候インデックス保険とは

気温、風量、降水量、日照時間等の天候指標が、事前に定めた一定の条件を満たした場合に定額の保険金をお支払いする保険商品です。近年深刻化している気候変動に対する適応策として、気候変動の影響を受けやすい発展途上国の農業セクターを中心に注目を集めています。

※2 宇宙開発利用大賞とは

宇宙開発利用の推進において先導的な取組みを行うなど、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした優れた取組みの功績をたたえることにより、日本の宇宙開発利用のさらなる進展や宇宙開発利用に対する国民の認識と理解の醸成に寄与することを目的とした内閣府宇宙戦略室が実施する表彰制度です。

1. 「地球観測衛星データを活用した天候インデックス保険の開発」について

2014年2月に、ミャンマー農業灌漑大臣、財務副大臣をはじめとする政府関係者に対して、グループCEO取締役社長である櫻田謙悟以下が天候インデックス保険に関するセミナーを実施し、農業の発展に寄与する保険であると評価いただいたことがきっかけとなり、ミャンマー政府と連携して保険商品の開発を開始しました。

しかし、ミャンマーは、気象観測のためのインフラおよび過去の気象データの蓄積が十分ではないことが天候インデックス保険の開発にあたり大きな障害となりました。

そこで、一般財団法人リモート・センシング技術センターの協力のもと、地球観測衛星から推定される雨量データを活用することで、日本初となる『地球観測衛星データを活用した天候インデックス保険』の開発が実現しました。これにより、同種の保険が存在していなかったミャンマーで初めて天候インデックス保険の提供が可能となり、今後販売を開始し、異常気象に苦しむ農家の生活安定と農業の安定的発展に貢献していきます。

「ミャンマー専用の天候インデックス保険開発」の詳細については以下リンク先をご参照ください。
http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2014/20141226_1.pdf

2. 今後の展開

SOMPOホールディングスは、東南アジアにおける気候変動による自然災害リスクに直面する農家の強靭性を高めるために、今後も地球衛星データなどの最先端の技術を活用した気候変動に適応する商品やサービスの開発を強化していきます。また、リスクに脆弱な社会層へのソリューションの提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続可能な成長を目指していきます。

以上



SOMPO
ホールディングス

SOMPOホールディングスは当社およびグループの略称です。